



国際会長 (IP) ヨハン・ヴィルヘルム・エルドヴィック (ノルウエー)

「ブルーミュージックで眠れる巨人を目覚めさせる」

会長 古賀健一郎

副会長 齋藤 宙也

書記 古田 和彦

会計 大高 治

直前会長 齋藤 宙也

アジア太平洋地域会長 (AP) ラチャン・マニカーン (タイ)

「アジア・太平洋地域をブルーミュージックで目覚めさせる」

東日本区理事 (RD) 山下 真 (十勝)

「挑戦なくして進化なし」

かながわ部長 (DG) 佐藤 節子 (厚木)

「一緒にワイズの未来を輝かせましょう」

横浜クラブ会長 (CP) 古賀 健一郎

「つながりを力に、平和な未来へ一歩」

監事 松島 美一

ブリテン 秋元 美晴

担当主事 菅原 歩

<今月の聖句>

押川 幸男

「見よ、わたしを救われる神。
わたしは信頼して、恐れない。
主こそわたしの力、わたしの歌
わたしの救いとなってくださった。」

(イザヤ書 12 章 2 節)

今月のひとこと

同盟協議会報告

齋藤 宙也

今年に入ってから、ほぼ毎月何かしらの原稿が降ってくる。7月からは、ロータリークラブの方で再度幹事をやることもあり、第1例会以外は基本的に休ませていただきます。

今年も、ブリテン刊行時点では危険な暑さが続いていると思われる。そのため、原則として新件も受けず、昼間は歩かないという基本に沿って動いている。この



辺りは毎年のことで芸がないので、今回は、少し早めに執筆して、同盟協議会のことについて触れてみたい。

同盟協議会自体は、意外と歴史が浅いイベントである (今年が15回目)。私が同盟の監事になってから、何回か参加している。

今年のテーマは、「分断の世界の中で、みつかる。つながる。よくなっていく。」であった。

分断という言葉が広く使われるようになったのは、2016 年かららしい。実感としては、トランプ氏が1期目の大統領選に勝利した年に当たるし、アメリカで生じた「分断」という言葉が、日本でも広く使われるようになったと推測できる。

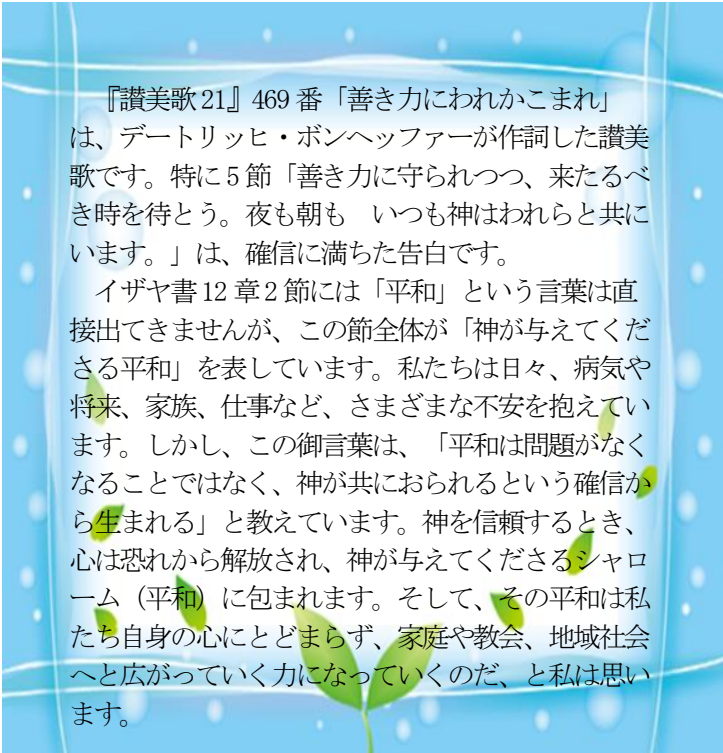
次に、「よくなっていく」というのは、「よくなる」ではなく、現在進行形であることがポイントだという。確かに、人間社会に、未来永劫変わらない完成形はないともいえる。ただし、(特にクリスチャンは) 神の国という完成形を想定しているとも指摘された。そして、ポジティブネットの根底にあるものとは何かという問い掛けについて、グループディスカッションがなされた。

昔、ある法律事務所の就職活動の面接で、「法の根底にあるものは何だと思いますか。」という質問があった。司法試験合格直後当時の私には、それに答えられる力はなかった。これはいろいろな答えがあるであろうが、法哲学とか法の歴史とか、いわゆる基礎法学という分野にまたがる問いである。司法試験合格直後はこれらの分野に全く関心がなかったが、実務に出て実際に法を使う側になってみると、一段高いところから法を考察するということが、(半ば現実逃避であれ) 面白く感じる。この面接以来の問い掛けであった。

そもそも、ポジティブネットが何かということ自体が問題である。教会は、同じ神を共に見上げる仲間たちの集まりということで、自分の中のポジティブネットのイメージだという人もいた。また、「誰かにとっての自分のところ (居場所) になる」というのがポジティブネットだという人もいた (「自分の居場所」というのは、自分が普段行く、安らぎの場所 (公園やカフェのイメージ)。ポジティブネットの根底にあるものについても、いろいろな答えがあるであろう。ただ、間違いなく言えるのは、

セーフティーネットと対比されるべき概念であるということである。セーフティーネットのネットは、既製品の網のイメージであり、ポジティブネットは、皆で作りに上げていく網のイメージである。ネットワークの「ワーク」というのは、work、つまり働きを意味するものであり、ネットを作りに上げていくという意味合いがあるらしい。実際、セーフティーネットは人為的な法により法の範囲で与えられるもの（既製品）にすぎないが、ポジティブネットは、人々の（時には泥くさい）活動によって作られるものといえる。考えようによっては、法の発生以前から、人類の本能的な営みとして存在していたのかもしれない。したがって、ポジティブネットの根底にあるものについて、私の答えとしては、ポジティブネットを作ろうとする人たちの自発的な営み、ということになる。

私は、都合により2日目の方しか出られなかったが、それでも十分得るものがあつた。また、横浜YMCAから、4人も主事認定者が輩出された。横浜Yの豊富な人材をどうサポートしていくか、ワイズ側の手腕も問われるであろう。



＜2026年7月例会実績＞

在籍者	出席者	出席率	B F
10名	メン 6名 メネット 0名 コメント 0名 ビジター 2名 ゲスト 1名 合計 9名	80% (メキャップ2名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円

＜8月の行事＞

戦略2032

日	曜	時間	行事内容	場所
7 9	金 日	10:00 ～ 17:30	エイズ文化フォーラム	かながわ県民センター
27	木	18:00 ～20:00	部納涼例会(兼)第一例会	ロイヤルホール ヨコハマ

第一例会報告

秋元 美晴

日時：7月9日(木) 18:30～20:30

場所：横浜中央YMCA

出席者：秋元、大高、古賀、齋藤(zoom)、菅原、古田
ビジター：佐藤節子部長(厚木クラブ)、坂口直樹部書記
(つづきクラブ)

ゲスト：水野美保氏

7月第一例会は、2025～2026年度総会及び2026～2027年度のキックオフミーティング。

- 古賀会長の開会点鐘および挨拶
- ワイズソング、ワイズ信条唱和
- 今月の聖句と祈禱：佐竹ワイズによる「今月の聖句」(コヘレトの言葉4章9-10節を古田ワイズが代読し、お祈りも古田ワイズが行った。
- ゲストの紹介：古賀会長よりパステルシャインアートの専門家である水野美保氏の紹介。
ビジターの紹介：古賀会長より公式訪問のため出席の佐藤部長と坂口部書記(つづきクラブ)の紹介。佐藤部長からは
- 【部長公式訪問】のため、2026～27年度の部長としての活動方針、事業計画などのお話があつた。7月17日に開催される日本語スピーチコンテストに審査員として出席して下さる坂口ワイズからご質問などがあつた。
- 【総会】定足数((定数:10名 会場5名+zoom1名、委任状3名:押川ワイズ、佐竹ワイズ、田口ワイズで出席9名、定足数7名以上)が確認された。
古賀議長のもと総会に入る。

議案の審議

・第1号議案 2025～26年度事業結果報告(資料1～4)・・・古田ワイズより報告 事業報告(資料1)、会員異動(資料2)、例会出席(資料3)、評価(資料4:活動方針 活動実績評価)・第2号議案 2025～26年度事業委員報告・・・各事業委員の口頭報告。ユース事業部は古賀ワイズが主査となる。かながわ部はユースとワイズが一緒になって進めていくということを確認した。・第3号議案 2025～26年度会計報告(資料5)・・・大高ワイズより報告があり、松島ワイズの代理として齋藤ワイズが監査を行った。第1号議案から第3号議案までそれぞれ承認された。・第4号議案 2026～27年度クラブ役員、事業委員が確認された。(資料6)・第5号議案 2026～27年度運営方針と事業計画(資料7、8)について古賀会長より次の

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

ように提案された。クラブ主題「つながりを力に、平和な未来に一步」基本方針：今日、世界では平和が脅かされ、多くの人々が不安と恐れの中に置かれています。そのような時代だからこそ、私たちは友情と奉仕の実践を通して人と人のつながりを深め、平和で希望に満ちた社会の実現に貢献してまいります。・第6号議案 2026-27年度 横浜クラブ予算案(資料9)・・・大高ワイズより提案があった。各議案は、挙手により賛否を確認し、すべての議案が承認された。

7. キックオフ例会・ビジネス・報告(1)第13回横浜YMCA 専門学校日本語スピーチコンテスト・日時：7月17日(金) 10:00-12:00・場所：横浜開港記念会館・会長挨拶(古賀会長)・審査員：坂口ワイズ、秋元ワイズ・参加者：大高、古賀、佐竹、古田、秋元・12:15~13:00 授賞式+懇親会：コンテスト終了後 於：横浜中央YMCAの教室、司会は古田ワイズ

(2)8月納涼例会について・日時：8/27(木)18:00~20:00・場所：ロイヤルホールヨコハマ・費用：8000円・かながわ部主催。・参加者：横浜クラブ(予定)：押川、秋元、大高、古賀メン・メネ、齋藤、佐竹、菅原、田口、古田

(3)9月第一例会 9/10(木)卓話を予定→ユースリーダーの常田風花さん(菅原さんが本人および関係者に聞いてみる)(4)ブリテン8、9月号編集計画の確認(別添資料)(5)その他・新年度になりました。会費を大高ワイズまで。

8. 閉会点鐘：古賀会長



ゲストの水野さん



ゲストとビジターの皆さんを交えて

13回横浜YMCAの専門学校日本語スピーチコンテスト

古賀 健一郎

7月17日(金)10時より、第13回横浜YMCA 専門学校日本語スピーチコンテストが開催された。会場は歴史ある横浜市開港記念会館でした。

横浜YMCA カレッジグループ日本語学科で学ぶ10名の留学生が、日本語で日頃の学びや人生経験、将来への夢を、熱意をもって発表しました。

【10人の発表者の日本語スピーチから】

発表はいずれも、日本語の表現力だけでなく、自身の人生経験や家族への思い、日本での学びを率直に語る内容で、聴衆は終始熱心に聞き入っていました。

① ディン・ティ・ヒエンさん(ベトナム)

「私が日本語の勉強を続ける理由」と題し、日本語は人と人の心をつなぐ架け橋であり、自らの成長と子どもの未来を切り拓く力になると語られました。「一歩ずつ進めば明るい未来が待っている」という力強い言葉が印象的でした。

② トーマス・タイラー・ジェームズさん(米国)

★後述します。

③ シン・ニティンさん(インド)

「言葉の向こうがわ」と題し、日本で出会った人々の親切な体験を通して、「言葉が少なくても、優しさや信頼は伝わる」と語られました。AIには伝えられない、人と人との心のつながりの尊さを考えさせられる発表でした。

④ ショウ・ヤクキンさん(中国)

「言葉にしにくい気持ち」をテーマに、日本独特の美意識である「もののあはれ」について発表されました。限りあるものだからこそ美しいという日本文化への深い理解と共感が伝わる、印象深いスピーチでした。

⑤ グルン・マン・プラサッドさん(ネパール)

「感謝の手紙」と題し、日本留学を支え続けてくれたお姉様への感謝を、手紙形式で心を込めて語られました。家族への深い愛情と恩返しへの決意に、会場から温かな拍手が送られました。

⑥ トー・テッ・テッ・サンさん(ミャンマー)

「魔法の鍵」と題し、来日直後に引っ越しや経済的な不安、学校での失敗が重なる中、笑顔を意識することで周囲との関係や自分の気持ちが変わっていった体験を語られました。「笑顔は未来を切り開く魔法の鍵」という前向きな言葉が印象的でした。

⑦ グエン・キム・ガンさん(ベトナム)

「ベトナムの伝統的なお正月」と題し、家族が集うテトの習慣や、幼い頃のお年玉、祖母との思い出を紹介されました。日本で家族と離れて暮らすようになって初めて、家族と過ごす時間の大切さに気づいたという言葉が心に残りました。

⑧ ファム・ティ・ジュウ・リンさん(ベトナム)

「不安の先にあったもの」をテーマに、言葉の壁や失敗への恐れから逃げていた自分が、アルバイト先での挑戦を通して変わっていった経験を語られました。「不安は一步前に進むサイン」という気づきに、成長への強い意志が感じられました。

⑨ リ・シウエンさん(中国)

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

「なぜ人はつながりを信じ続けるのか？」と題し、来日直後の不安の中で交わされた「おはようございます」という挨拶が、人とのつながりを生み出した体験を発表されました。何気ない一言にも、異なる文化や心を結ぶ力があることを伝える、温かなスピーチでした。

⑩ ファルハン・モハンマド・アブドラさん (バングラデシュ)

「バングラデシュと日本の文化の違い」と題し、日本の「順番を守ること」と「時間を守ること」に込められた、相手への尊重について語られました。将来は、日本とバングラデシュをつなぐ人になりたいという抱負に、強い希望が感じられました。

【トーマス・タイラー・ジェームズさん (米国) 最優秀賞】

10名の発表はいずれも素晴らしい内容でしたが、最優秀賞には、米国出身のトーマス・タイラー・ジェームズさんが選ばれました。

米国からの留学生、トーマス・タイラー・ジェームズさんで『言葉には人生を変える力がある』と題して語りました。聖書の箴言16章24節とご自身の体験を結び付け、「言葉」の力を語られた点は、日本語スピーチコンテストにふさわしい、内容・構成ともに優れた発表だったと思います。私自身、スピーチの中で聖書・箴言16章24節が引用されたことにも深い感銘を受けました。

テーマ『言葉には人生を変える力がある』

トーマスさんは、「言葉には人生を変える力がある」をテーマに、言葉が人を励まし、希望を与える一方で、人を深く傷つけることもあると、自らの体験を交えながら語られました。

スピーチでは、聖書・箴言16章24節の『親切な言葉は蜂蜜のように、魂に甘く、体を健やかにする』との言葉を引用し、日本のことわざ「口は災いの元」にも触れながら、言葉の持つ大きな力について深く考察されました。

大学でアルバイトをしていた際、新入留学生に「大学へようこそ」と声を掛けたことがきっかけで友情が生まれ、その言葉が帰国後も相手に安心と希望を与え続けていたこと、また、ご自身も家族に対して不用意な言葉を発して後悔した経験を率直に語られたことが印象的でした。

最後に、日本語は試験のためだけのものではなく、「人と心を通わせ、信頼関係を築くための大切な道具」であり、「真実と愛をもって語り、人に希望や励ましを届けたい」との言葉で締めくくられました。

その誠実で心に響く内容は、最優秀賞にふさわしい素晴らしいスピーチでした。

私自身、箴言16章24節の聖書の言葉が引用されたことにも深い感銘を受けました。「親切な言葉」は人の心を癒やし、人と人を結びます。まさに、日本語を通して「世界はひとつ」であることを実感させてくれる、心に残るスピーチでした。

【全体を通しての感想】

10名の発表者は、それぞれ異なる国や文化的背景を持ちながら、日本での学びや家族への感謝、人との出会い、困難を乗り越えた経験、そして将来への夢を、自らの言葉で率直に語られました。

発表を通して改めて感じたのは、日本語は単なる言葉ではな

く、人と人を結び、互いを理解し合うための「心の架け橋」であるということです。留学生の皆さん一人ひとりの真摯な思いは、会場にいた私たちの心にも深く届きました。

それぞれのスピーチには、国や文化の違いを越えて互いを理解し合い、共に生きることの大切さが込められており、横浜YMCAが目指す「地球市民」の理念を実感する、実り豊かなスピーチコンテストとなりました。

留学生の皆さんのスピーチを通して、「世界はひとつ」という言葉を改めて実感するとともに、多様な文化や価値観を尊重し合い、平和な社会を築いていくことの大切さを改めて学ぶ貴重な機会となりました。



コンテストの後の授賞式



トーマス・タイラー・ジェームズさんと古賀会長

2026-2027 年度かながわ部 第1回評議会報告

古田 和彦

1. 開催日時・場所
2026年7月18日(土) 15:00~17:00 於 横浜中央YMCA6階606号室・Zoom
2. 委任状を含め過半数の出席により成立 定数29名中29名出席
会場: 19 Zoom: 1 委任状: 9
横浜(会場: 大高、古賀、古田 委任: 齋藤)
3. 全体司会は部書記の坂口直樹ワイズ(横浜つづき)、議事の議長は佐藤部長(厚木)
4. 議案とその採決結果
第1号議案 2025-26年度事業報告(承認)
兵藤直前部長が資料により報告。部内各クラブの結びつきが強まった。計画されたことは全て予定通り行う事ができた。
第2号議案 2025-2026年度会計決算報告・会計監査報告(承認)

兵藤直前部長から概要が、続いて古田直前部書記から報告された。単位:円

一般会計 収入158,671 支出85,606 収支差73,065
前期繰越 492,715 特別会計へ繰出 300,000 次期繰越 265,780
特別会計 前期繰越 311,000 部旗作成費 40,000
一般会計から繰入 300,000 次期繰越 571,000 合計資金残高 836,780

鈴木茂監事(横浜つづき)から適正に処理されている旨の監査報告がなされた。

第3号議案 2026-2027年度部長方針と事業計画(承認)

前年度第3回評議会に示された内容が再確認された。

第4号議案 2026-2027年度会計予算案(承認)

佐藤部長の指示により、古田会計から説明。

一般会計 収入 100,000 支出 108,000

収支差 -8,000

前年度繰越 265,780 次年度繰越 257,780

特別会計 増減なし

第5号議案 2026-2027年度部役員の一部変更(承認)

佐藤部長より提案。ユース事業主査若木一美ワイズ(鎌倉)が区監事就任に伴い辞任したので、後任に齋藤宙也ワイズ(横浜)を提案する。

5. 部長バッジの引き渡し式が行われた。兵藤直前部長から佐藤部長へ。

6. 報告連絡

(1) 部長報告は次回に行う

(2) 出席の各主査(地域奉仕:久保勝昭、国際・交流:今城高之)から、今年度の抱負が述べられた。

(3) 各クラブ会長からは今年度のスローガン、主なイベントなどの報告があった。

(4) YMCA報告。森本担当主事から、ヴェネズエラ地震緊急募金、AIDS文化フォーラム、第38回YVLF、チャリティーランTシャツ販売等の報告・依頼があった。

7. 監事講評

鈴木監事から、本年度主題である「輝く」、「前進」を取り上げ、一人一人の輝きが部全体の輝きになっていくよう、佐藤部長のリーダーシップに期待するとの講評があった。

8. 佐藤部長の閉会点鐘で閉会した。

近況

衣笠病院とYMCA 平和と奉仕が紡いだ79年の絆

田口 努



日本YMCA 同盟退職後、4月から衣笠病院グループ(社会福祉法人日本医療伝道会) 副理事長に着任し4か月が過ぎました。「キリスト教精神に基づく全人医療」を掲げ地域に寄り添う当院は創立79年を迎えますが、その歩みにはYMCA との深い結びつきがあります。両者の絆は、激動の時代を生き

抜いた先人たちの「平和と奉仕」への情熱から始まりました。

原点は日中戦争下の南京にあります。1938年、学生YMCA や日本YMCA 同盟は戦火の避難民を救うべく「朝天病院」を開設し医療奉仕を展開。終戦2年後の1947年、現地で尽力した医療者らが横須賀の衣笠病院(当初・日本基督教団立)へ結集し創立の一員に加わりました。1949年には日野原重明氏らも集い「日本キリスト者医科連盟(JCMA)」を結成、日本の医療伝道の拠点となりました。

1960年、大火災により病棟の大半を焼失する危機に瀕しました。その際、陣頭指揮を執ったのは、かつて朝天病院の運営にあたられ、のちに当院の第2代理事長に就任した末包敏夫氏(元・横浜YMCA 総主事)でした。末包氏はキリスト教界や地域の絆を総動員し、奇跡の再建を果たしました。

以来、日本YMCA 同盟歴代主事・総主事の木本茂三郎氏、大和久泰太郎氏、塩月賢太郎氏、井口延氏をはじめ、横浜YMCA 元総主事の吉村恭二氏、山根誠之氏、同会員として、加賀美文一氏、助川利夫氏、岡幸男氏。そして地域福祉の阿部志郎氏らが代々役員として経営と理念を支え続けてきました。

「苦しむ人に手を差し伸べる」——戦後81年の今夏、戦時中の南京で戦争被災者のために働いた先人たちの志を、今改めて心に刻み歩みたいと思います。全人医療の精神で病院、老健、特養、ホスピス、在宅看護など保健、医療、福祉の一体的連携を通して地域に奉仕する働きを新たな思いで学びつつ過ごす今日の頃です。

第二例会報告

古賀 健一郎

日時: 7月23日(木) 17:00~18:00 (Zoom開催)

出席者: 秋元、大高、古賀、菅原、古田

《今後の行事予定》

・確認した。

《協議・報告事項》

(1) かながわ部納涼例会(兼)横浜クラブ8月第一例会(添付参照)

日時: 8月27日(木) 18:00~20:00

場所: ロイヤルホールヨコハマ

会費: 8,000円(横浜クラブからの紹介ゲストには、会費5千円として3千円はクラブ負担とする)

・横浜クラブが主体的に受付など働きを担う。

・開会・閉会点鐘用の鐘と万国旗を古賀が会場に運ぶ。

・名札は各自それぞれのクラブで使用している名札をもってくるよう古田さんから呼びかける。名札を忘れた人には、古賀が『タックシール』を用意する。

・席順のクジは秋元ワイズが用意する。

・ビンゴによる景品(QUOカード10枚 かながわ部にて用意)など、詳細な働きの打ち合わせ。

★8月8日(土)14時 部関係者にて会場見学予定。

(2) 横浜クラブ9月第一例会(9月10日 18:30 於: 横浜中央YMCA)

【先日の石巻の東日本区大会に参加された横浜YMCAユースリーダーの常田風花さんの報告を予定したい。】(追記)

★ユース同士のネットワーク形成を核に、将来のユース

★ 強い義務感をもとう 義務はすべての権利に伴う ★

スクラブの母体となる緩やかな連携を育む。
東日本区大会での「ユースの時間」参加者（10名）への支援として、参加者への資金面の助成を東日本区ユースファンドと関係部で支援した。

★かながわ部から常田風花さん（横浜YMCAユースリーダー、2025年9月の富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ開催のYVLFで中心的リーダーを務めた）に、東日本区大会の参加費用の一部として10,000円を支援した。

(3) 横浜クラブ10月第一例会（10月8日（木）18:30 於：横浜中央YMCA）

【7月例会にゲストとしてご出席いただいた水野美保さんに、10月例会の卓話をお願いすることとし、古賀会長がご本人に依頼することとなった。】

★水野さんは、パステルシャインアートインストラクターとして活動されています。パステルシャインアートは、創始者・江村信一氏が1995年に考案したアートで、阪神・淡路大震災や地下鉄サリン事件を契機に「人々の心に夢と希望を届けたい」「幸せの種をまきたい」という願いから生まれました。

水野さんは、この理念に深く共感し、パステルシャインアートを通して、人々の心に寄り添い、希望やつながりを育む活動を続けておられます。

(4) ブリテン8月号・9月号編集計画（別添による）



担当主事 菅原 歩

横浜YMCAでは8月、平和への祈りを深めるとともに、次世代を担うユースたちが世界へ羽ばたく国際プログラムを数多く展開しています。7日からの「AIDS文化フォーラム in 横浜」では、病や差別の垣根を越えて「本音で語り合える場」を創出し、誰もが大切にされる公正な社会について考えます。また、8日の「平和のための合同祈禱会」では、争いの絶えない世界に思いを寄せ、共に平和を求め祈る時を持ちます。

一方、国際交流ではタイへのスタディーツアーやバンクーバーでのキャンプにユースたちが旅立ちます。現地の社会課題に触れ、異文化の中で自分を見つめ直す経験は、自ら考え行動する「主体性」を育む大切な機会となります。

平和とは、決して大きなことを成し遂げるだけでなく、「誰かのために時間を使い、その思いを受け継いでいくこと」から始まると私たちは考えています。

この夏の豊かな出会いが、一人ひとりの心に平和を創り出す力を育む一歩となるよう、共にあゆみを進めてまいります。

8月

7日～9日 第33回 AIDS文化フォーラム in 横浜

8日 平和のための合同祈禱会

6日～18日 横浜YMCA グローバル・スタディーツアー in タイ 2026

8日～16日 サマーキャンプ in バンクーバー

8月かながわ部納涼例会兼第一例会プログラム

日時：8月27日（木）18:00～20:00

場所：ロイヤルホールヨコハマ

司会：古田ワイズ

1. 開会点鐘および挨拶・・・佐藤かながわ部部長
2. ワイズソング・ワイズの信条・・・全員
3. 今月の聖句・・・・・・・・・・押川ワイズ
4. 食前の感謝・・・・・・・・・・押川ワイズ
5. 乾杯・・・・・・・・・・鈴木ワイズ（つづき）
6. 食事・歓談
7. 出し物・・・・・・・・・・有志
8. ビンゴゲーム
9. 報告・連絡
10. Happy Birthday
11. 閉会点鐘・・・・・・・・・・古賀会長

例会報告 古田ワイズ

9月の行事予定

日		曜	時 間	行 事 内 容	場 所
1		火	19:00-20:30	第112回 Y・Ys 協議会	中央Y
4 6		金 日		ユースボランティア リーダーズフォーラム	八王子
10		木	18:30-20:00	第一例会	中央Y

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 菅原歩にご連絡下さい。

メール sugahara_ayumu@yokohamaymca.org

電話 045-307-7556